

ミネソタ便り 11 (緊急報告編 1)

Crookston の町の真中を市民の水資源である Red Lake River が流れている。この川を東に 100 km ほど遡ると、そこに Lower Red Lake が横たわっている。途中 Red Lake Falls という Fishing 観光で多少有名な町がある。かなり離れてはいるが、Red Lake とは川を通じてつながりの深い町と言ってよいであろう。そこで大事件が起きてしまった。車で 1 時間半ぐらいの隣の町での事件だ。ミネソタ便りも番外編で一区切りし、じっくりと学校報告編、現地報告編の後半に取り掛かろうとしていた矢先の出来事である。

この地に来て学校と教会を中心に地域社会と接していると陽の部分ばかりでなく陰の情報も入ってくる。

私は、小中学校を中心とした私の周辺と当地の象徴である冬と闘っている姿からミネソタ便りを報告しようと決めていた。すべて陽の部分である。私の授業のひとつである日本文化の民話も最後は浦島太郎にしてある。ミネソタ竜宮を“タイやヒラメが舞い踊り、ただ珍しく面白く月日の経つのも夢のうち”と絵にも描けない美しさを報告する浦島太郎になったつもりでいた。そして陰の部分は、帰国後に「玉手箱」を開けることにしよう決めていた。厳しい現実を帰国報告編として届ける。それが今回、当地にいる間の礼儀だとも思っていたからだ。陰口になるような報告はしたくなかった。

しかし、事件はおきてしまった。陽の部分だけで押し通すシナリオはもう通用しないだろう。たとえ続けたとしても伝える方も聞く方も、もう空しい。悲しいことである。陽の部分は多少正確さが欠けていても罪は浅い。しかも、気分と勢いで押せる。気が楽だ。私流に言う作家の仕事だ。しかし、陰の部分はそうは行かない。責任がある。帰国し、しっかり調べてからにしよう。そういう下心が働いていたことも事実だ。気が重い。しかし、ミネソタ便りを続ける限り、もう避けては通れないであろう。文章家の役割は苦手だ。

私は、覚悟を決めて報告する情報を聞き出しにかかった。しかし、この地の人たちは口を閉ざした。この問題になると、みなで世界遺産の日光にゆき「見ざる、聴かざる、言わざる」を見てきたのではないかと思うほど同じ態度を示す。長い地元史から出てくる結論であろう。私だけに対してではない。マスコミに対しても同じようだ。3月30日付で地元紙の記者は次のように嘆いている。

People still don't want to speak on the record to the news media ,citing fears of possible reprisal.
(Herald Staff Writer)

マスコミは、「これは、全米各地に共通する問題だと捜査関係者が指摘している」と伝え、「連邦検事は、どこでも起こりうる。対策は難しい、と困惑している」と報道する。あとは心理学者や民俗学者などの講義をニュース代わりに使っただけだ。意見が、言えない、聴けない、見えない、の3申状態だ。

地元のひとたちは、首から上は閉ざしているが、無言で手足や身体はすばやく動かしている。すぐカンパ資金集めの夕食会が企画され実行された。事件の真相が発表される前に寄付は行われた。カンパ資金集めの夕食会というのは始終行われている。教会や学校のカフェテリアやイーグルという地域の国防組織の会館を利用して行うボランティアである。肉食中心の当地の人たちは普段、家庭ではめったに魚は食べない。品数は少ないが店で冷凍物を買ってはいる。べらぼうに高い。高級品である。しかもみな揃って魚嫌いだ。習慣がないからであろう。夕食会は、湖で漁れる Walleye という淡水魚を揚げたものを Main dish とし、ポテト、サラダとコーヒーをつけ、ケーキを Option としたメニューと決まっている。1 Fish 7 ドル、2 Fish 9 ドル、Cake 1 ドルである。7, 8, 9, 10 ドルのいずれかを選び寄付し食事する。食材も場所も料理人も給仕もすべてボランティアで賄う。

私が通う学校のカフェテリアでは、普通 200~300 人集まる。今回は最大の 500 食出たと地元の Crookston Daily Times は伝えている。ここだけで 40 数万円の寄付であろう。

マスコミが伝える事件の概要はもう日本にも伝わっているだろう。省略する。事件の背景をできるかぎり述べてみたい。取材時間の短さと狭さが気になるが Go だ。

「米本土最北端の不思議な飛び地」と陰で言われてきた場所は、この事件の起きた町の北部にある。アメリカとカナダの国境線は、このあたりから西海岸までは北緯 49 度線に沿ってまっすぐに引かれている。ところがこの Red Lake の北部の西経 95 度のところで急にいったん 90 度北上し、すぐ、今度は凹凸のある曲線で Great Lakes へと向かう。そして湖と川を使い国境線は東海岸に抜けてゆく。地図で見ると Lake of the Woods 脇の一部の土地が出ベソのような妙な飛び地となっている。なぜこのような不自然な国境線になったのかは不明だそうだ。いろいろな説があるらしい。ただ、この出ベソは、カナダから見ると陸続きだが、アメリカ側から見ると湖の孤島だ。そこにヒントがありそうだ。

事件が起きた周辺には、現在、3つの Indian Reservation(居留地)がある。Red Lake Ind.Res.、White Earth Ind.Res.と Leach Lake Ind.Res.である。1つが 50~60km 四方の広さの居留地だ。お互いが数十キロしか離れていない。隣同士だ。周辺は湖だらけである。ミネソタには 10,000 以上の湖があるといわれている。自動車のプレートに 10,000Lakes と書いてミネソタ州をあらわしている。どのくらいのすごさかと言うと、湖岸線を積算すると California、Florida という長い海岸線を持つ 2 州と群島からなる Hawaii の海岸線、それら 3 つを合わせたものより長い 90,000Miles 以上の Shoreline だと自慢している。ここに住むインディアンはアルゴキン語を話したオジブエ族である。アメリカインディアンの中で最大の人口の持ち主だ。カナダと合わせると 1980 年代初頭で 7 万 5 千はゆうに超える勢力を持っていたそうだ。森林インディアンとも呼ばれていた。いまでは森林を伐採してしまったので平原インディアンに成り下がったと自らを嘲笑しているらしい。

今回の事件が発生した Red Lake 居留地には約 5,000 人が住んでいる。森林と湖に囲まれた自然豊かな地域である。独自の政府を持っている。一昔前までは森林伐採と漁業を中心に生計をたてていた。時代の変化で生計が成り立たなくなり失業者が増え続けているという深刻な問題を抱えている。

次第に連邦政府の福祉、補助・助成金頼みの生活になっているそうだ。皮肉なことに補助金を増やすために人口は 80 年から 90 年の間に 40%近い伸びを見せているらしい。純粋に人口が増えているのか、助成金対象人口が増えているのかはわからない。

いまのインディアン社会では、インディアンとなる資格とそれを認める血の割合は最重要政治課題のひとつらしい。血の問題は、部族内の政治とも深く関係しているそうだ。混血が進むと血の割合の条件に合わない人が増え、部族の消滅問題にもなりかねないからである。しかし、純血伝統人は圧倒的に少数派になっている。

また、白人寄りの混血派と純血伝統派のどちらがリーダに選ばれるかによってインディアンとなる資格の認め方に重要な影響を与えることになるだろう。五大湖地方のインディアン政治の特色は、ミデウィウィン(グランド・メディシン・ソサエティのことをインディアン語でこう言うらしい)といわれている。これはインディアン部落民の正式メンバーとなるための正儀式らしい。多分、インディアン資格の認められた人が受けるカソリックで言う洗礼に当たるものだろう。神聖な様々な儀式を受けるらしい。この儀式では部族の歴史が歌と踊りで再現され、いまでも特別につくられた長いウィグワムという式場で行われているらしい。カルメットと呼ばれる聖なる長いパイプと飾り立てた儀式用の太鼓を崇めているらしい。

近年、部族が合法的に獲得した収入の道がある。いろいろな交渉過程を経てカジノの運営権を持つことができた。いまではラスベガスに行かなくてもかなりの州でインディアンの経営するカジノで楽しめる。数も増え続けている。ミネソタにもカナダから観光バスがカジノツアーで大勢押しかけてくる。Crookston の町外れはその通り道にもなっている。カジノの経営者は、部族のリーダーグループである。従業員もほとんどがインディアンである。お客はもちろん白人、黒人が対象だ。しかし、カジノは享楽の世界でもある。白人的な倫理概念を準備していない彼らは、酒と薬物に対する警戒心や抵抗力が薄い。窃盗や薬物絡みの犯罪、アルコール依存症が多発するようになってしまった。被害者は白人、黒人に多い。以前報告したミネソタ便りの地元新聞の犯罪記録表をもう一度見ていただきたい。

でも今回の事件は、すべて居留地内での内紛という出来事である。悲しさだけが動いており、あとは動いていない。あまり伝えられていないこんな実態が、このアメリカ中央北部のミネソタの地にあったのだ。この状態は、活火山、休火山、死火山いずれであろうとも火山帯には違いない。いつ地震が起きるかわからない。そんな中で起きたものだ、といったら無責任な傍観者の便りであろうか？

いったんここで便りを中締めをしたい。